

久留米大学を受診した患者さんへ

「当院における小児下部消化管内視鏡検査の現状に関する調査研究」の研究に使用する情報について

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の情報を使用します。

- 1) 期間：2007（平成 19）年 4 月から 2016（平成 28）年 4 月
- 2) 受診科：消化器病センター または 複数科にわたるもの
- 3) 対象疾患名：UC 関連大腸腫瘍を合併した潰瘍性大腸炎
- 4) 使用する情報：診療情報

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承くださいませよう、お願い申し上げます。

- 1) 研究組織：所属：1) 久留米大学医学部内科学講座消化器内科部門
2) 久留米大学病院消化器病センター

研究代表者：助教 吉岡慎一郎¹⁾

研究分担者：教授 光山 慶一¹⁾

助教 森 敦¹⁾

助教 福永 秀平¹⁾

助教 山内 亨介¹⁾

助教 竹田津英稔¹⁾

教授 鶴田 修²⁾

教授 鳥村 拓司¹⁾

2) 研究の意義と目的：

潰瘍性大腸炎という疾患は、主として粘膜を侵ししばしばびらんや潰瘍を形成する大腸の原因不明のびまん性非特異性炎症性疾患で、2014 年の時点で日本に 18 万人を超える患者さんがいます。近年潰瘍性大腸炎の長期経過例は大腸癌（潰瘍性大腸炎関連腫瘍）を発症する危険性が高いことが分かってきました。そのため発症から 7 年以上を経過した患者さんには、一年に一回サーベイランスと言われる大腸内視鏡検査を受けていただき、癌及び前癌病変である異型上皮の早期発見に努めています。しかしながら潰瘍性大腸炎関連腫瘍は、通常の大腸癌と比較し多彩な形態をとるため、早期発見が困難であることが課題となっています。

近年、内視鏡機器の進歩により様々な画像処理（画像強調内視鏡）を行うことによって、詳細な粘膜構造を捉えることができるようになり、通常の大腸腫瘍の診断に有用とされてい

ます。しかし潰瘍性大腸炎関連腫瘍に関してその有用性については未だ不明です。今回診療情報を用いてが画像強調内視鏡を行った潰瘍性大腸炎関連腫瘍の特徴を詳細に検討しその有用性について調査研究を行いたいと思います。

3) 研究の方法：

内視鏡検査マネジメントシステム「Solemio END」に記録された全ての過去データより、潰瘍性大腸炎関連腫瘍を認めた潰瘍性大腸炎の患者さんをリストアップします。その後リストアップ病変と類似した通常の大腸腫瘍をリストアップします。次の5項目 1) 患者の臨床的特徴、2) 病変の部位 3) 画像強調内視鏡（CE、NBI、AFI）を用いてその腺管模様、血管構造の解析 4) 画像解析ソフトを用いて病変の自家蛍光イメージングの定量化 5) Sporadic tumor との比較検討 以上について検討、解析します。

4) 研究期間：

平成 28 年 5 月倫理委員会承認後～平成 30 年 5 月

5) 上記の情報の使用を選定した理由：

当院で発見された UC 関連腫瘍に対して、次の5項目 1) 患者の臨床的特徴、2) 病変の部位 3) 画像強調内視鏡（CE、NBI、AFI）を用いてその腺管模様、血管構造の解析 4) 画像解析ソフトを用いて病変の自家蛍光イメージングの定量化 5) Sporadic tumor との比較検討について、医療記録を用いて後ろ向き研究を行うためです。

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：

この調査から得られる情報は、プライバシー保護のため、個人が特定できないような単なる数字の情報に変換して厳重に管理いたします。調査の結果を公表する場合にも、個人名が出ることは絶対にありません。

7) 研究成果の発表の方法：国内および国際学会や学術論文において発表を行います。

8) 利益相反：本研究は特定企業からの資金援助はありません。

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

〒830-0011

福岡県久留米市旭町 6 7 番地

久留米大学医学部内科学講座消化器内科部門医局内

助教 吉岡慎一郎

TEL 0942-31-7561 PHS 11719